

平成23年度第2回美術館協議会 議事録

- 1 日時 平成24年3月26日(月)午後2時～
- 2 場所 美術館総合実習室
- 3 出席者 協議会委員：11名
 - ・曾根敦子 ・秋山 弘 ・古屋知子 ・齊藤武士 ・金丸康信
 - ・鈴木郁子 ・植松増美 ・渡辺文子 ・島津久美子
 - ・原まゆみ ・大村 智

事務局：白石館長・高山副館長・向山学芸幹・古屋総務課長
美術館担当3名・指定管理者2名

教育委員会：高橋学術文化財課長・企画担当1名

- 4 議事 平成23年度事業実績及び平成24年度事業計画について
- 5 議事の概要

A 委員：モリス・ドニ展を友人に紹介したら大変喜ばれた。指定管理者のリサーチはよくやっているが、独りよがりになっては困る。お客さんの声をよく聞くように心がけてもらいたい。悪い評判こそウェルカムである。喜びの声は、職員みんなが自信を持つ。指定管理者をはじめ協力会も含めて、来館者の声に耳を傾けて取り組んでももらいたい。

B 委員：東電の値上げに対する影響及び節電の取り組みは。

事務局：美術館・文学館・芸術の森公園全体で800万円～1000万円の値上げになるが、今年の11月に契約を更新したばかりなので、今年の11月までは時間の猶予がある。また、ロビーの電球をLEDに代える予定であり、初期投資が高額になるが、その他にもLED化を検討していきたい。

B 委員：国文祭に向けた取り組みは。

事務局：ミレーの作品の展示は、通常、油彩を12点、その他10点程度であるが、国文祭の期間には、約70点のミレーの収蔵品を総て展示することを検討している。また、山梨県を強く印象づける展示会や山梨県内にある美術館等の代表作品を一堂に集めた美術館大全のようなことを検討している。

C 委員：美術館の評価をしているHPがあるが、山梨県立美術館の評価の中で、シャープペンシルを使っていたら鉛筆にしてくれと言われて憤慨したとの書き込みがあった。

事務局：鉛筆以外の筆記用具は、国内外の博物館施設では常識的ルールとして認められていないと承知している。美術館では昔からシャーペンも含めて、万年筆やボールペンなどインクを使用したものの利用は認めていないが、なぜこれがという根拠がない。

昨年、図書室内でのことであったかと思うが、お客様にそのように言ってから鉛筆を渡したところ、誰だかわからない人が使った鉛筆は使えないと、納得していただけなかったことがあった。

D 委員：山梨県立美術館の作品を他館へ貸し出すことがあるのか。

事務局：年間を通じて多くの作品を貸し出している。

D 委員：川端展の最後の方の展示は、同じような作品ばかりが並べられているように見えたが。

事務局：展示した作品は、今回初公開のものであり、意気込んでたくさんのもを展示したが、独りよがりだったかもしれないので、今後は気をつけたい。

A 委員：今日は休館日であるが、一般の観光客が3組ほど入り口まで来て、美術館が休館日であると気づいて帰られた。休館日の表示が、駐車場や公園の入り口に出せないのか。

事務局：都市公園なので、1年中門を開けているが、ご指摘のとおりである。今後対応していきたい。特に、作品の燻蒸のために1週間程度休館することがあり、遠方からのお客様には大変申し訳なく思っている。

館でも、チラシやHPでできる限りの広報を行っているところであるが、やはり限界がある。いい知恵があったらご意見をお聞きしながら改善していきたい。

E 委員：障がいを持っている人たちの展覧会を、ギャラリーで開催していただき、大変感謝している。今後も是非続けていただきたい。